

# 環日本海環境協力センター (NPEC) における海洋ごみ対策事業



- Northwest Pacific Region Environmental Cooperation Center (NPEC)



**N P E C**

# **海洋ごみ対策事業実施状況**

**海辺の漂着物調査**

**離島における海洋ごみ被害状況調査**

**海辺の漂着物調査検討会**

**海の理解促進講習会**

**漂着物アート展**

**海洋ごみ削減方策検討会**

# 海辺の漂着物調査

## 趣旨

- (1) 海洋環境保全データの取得
- (2) 環境教育の推進 (「ごみを捨てない心、海の環境を守ろうとする心を育む」という共通意識の醸成)

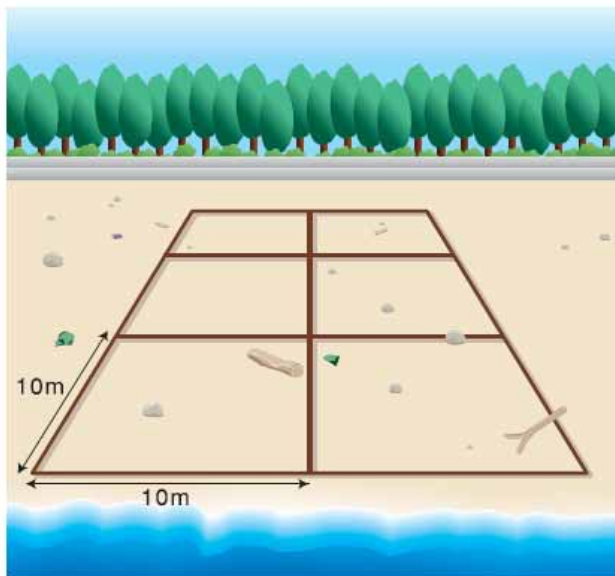
## 調査内容

プラスチック等の人工物による海辺の汚染実態の把握

## 特徴

- (1) 統一した調査方法による国際調査(日、中、韓、口)
- (2) 同時期に日本海沿岸諸国の多数の自治体、海岸で実施
- (3) 自治体とNGO・NPO等の主体が連携・協力し、多数のボランティア等が参加
- (4) 埋没物調査を併せて実施
- (5) 参加者ひとり1人の環境保全意識の高揚

# 漂着物調査 方法



① 調査区画を設定しましょう。



② 漂着物を拾い集めましょう。



③ 漂着物を分けましょう。



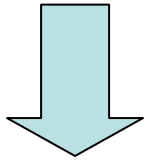
④ 漂着物の重量・個数を測り、表に記入しましょう。

調査方法は、JEANクリーンアップ全国事務局によるものを参考にしています。

# 海辺の漂着物調査 規模

## 【1996年度調査規模】

参加国 : 日本  
参加人数 : 延べ548人  
調査海岸数 : 16地点



## 【2007年度調査規模】

参加国 : 日本、中国、  
韓国、ロシア  
参加人数 : 延べ3,517人  
調査海岸数 : 83地点



# 海辺の漂着物調査 調査風景

ロシア



中国



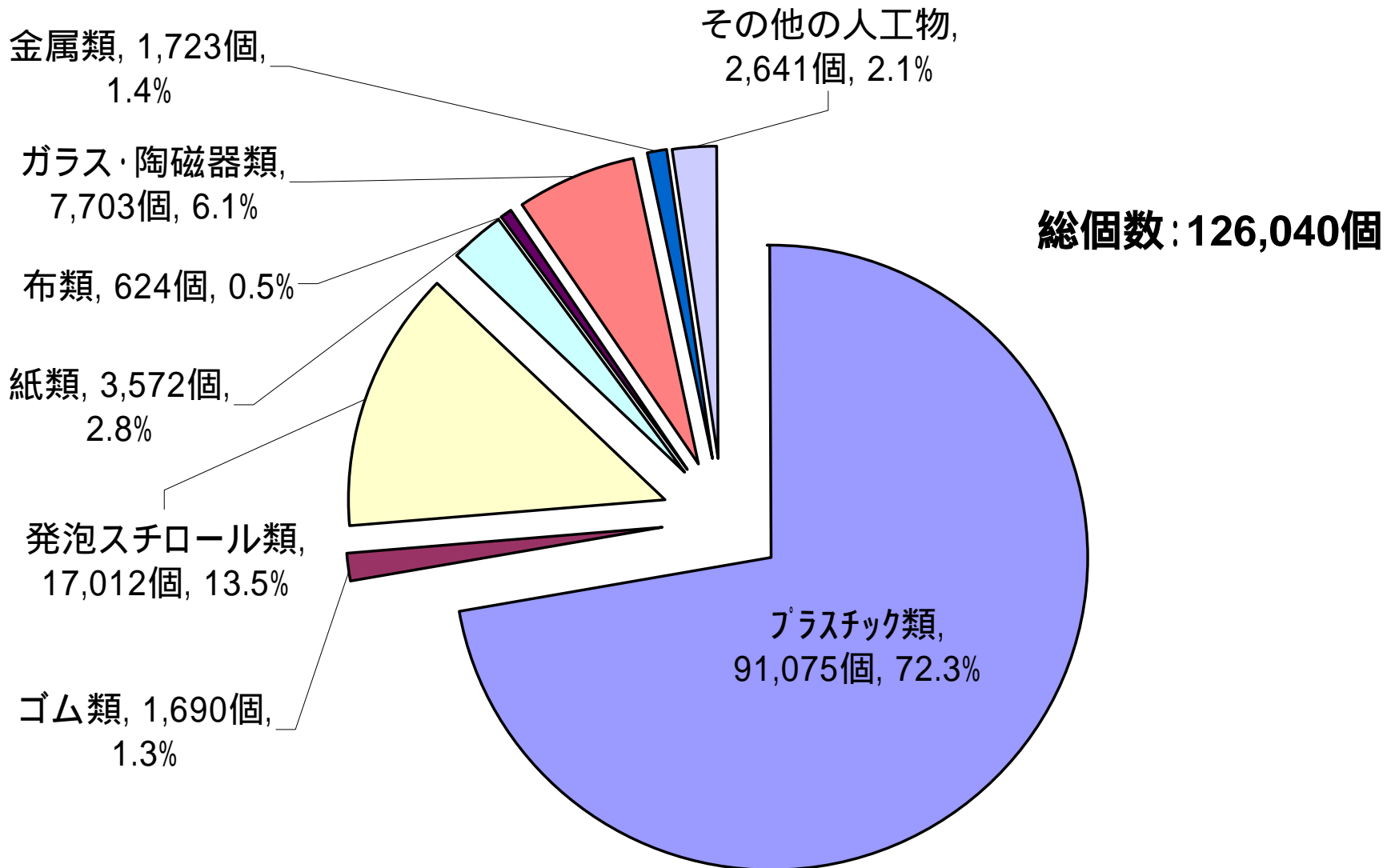
韓国



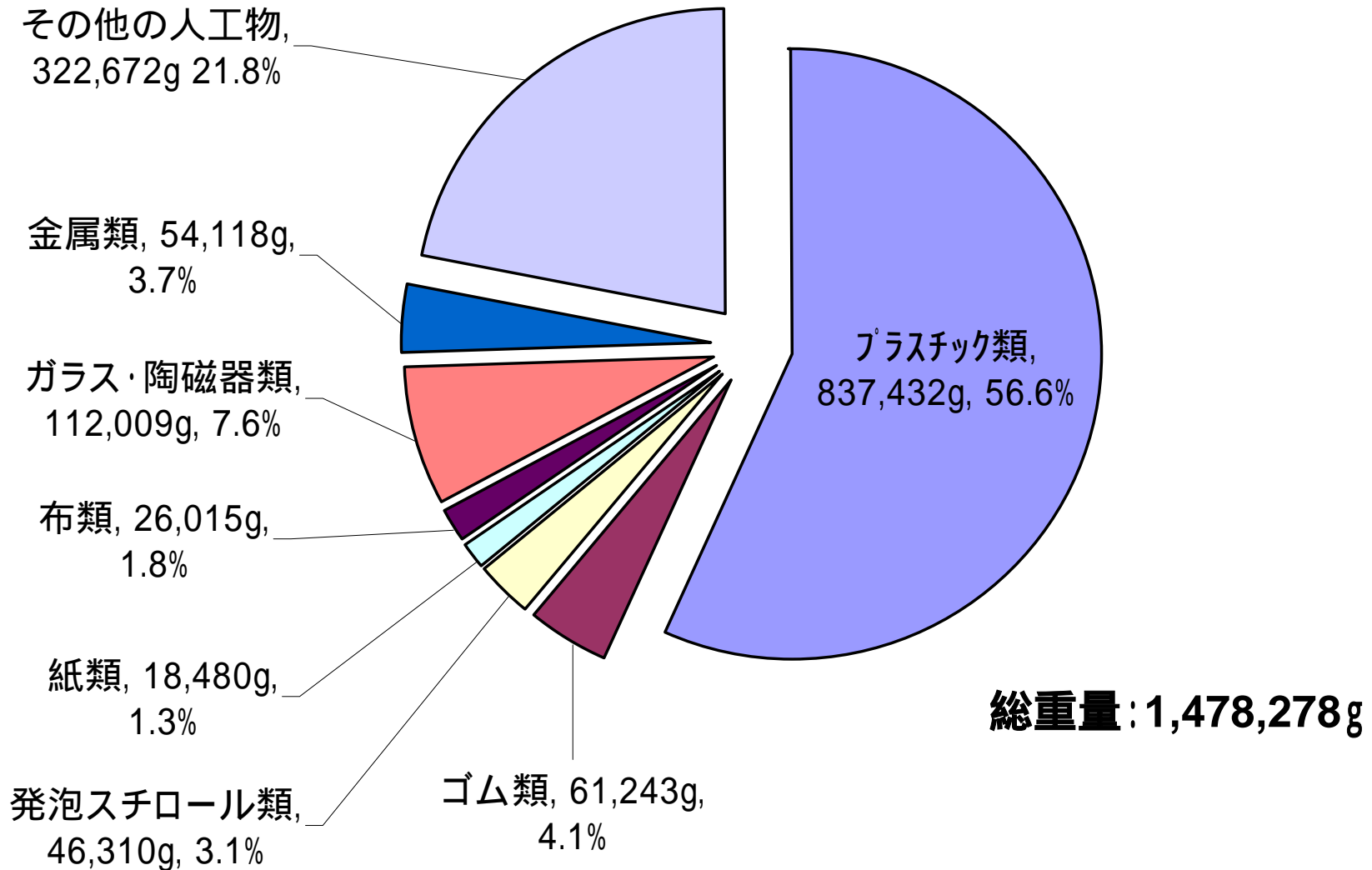
日本



# 2007年度漂着物調査結果(個数)



# 2007年度漂着物調査結果(重量)

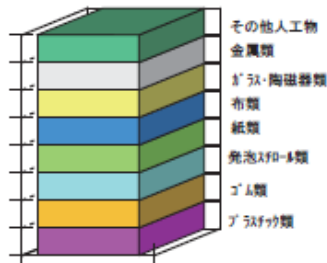




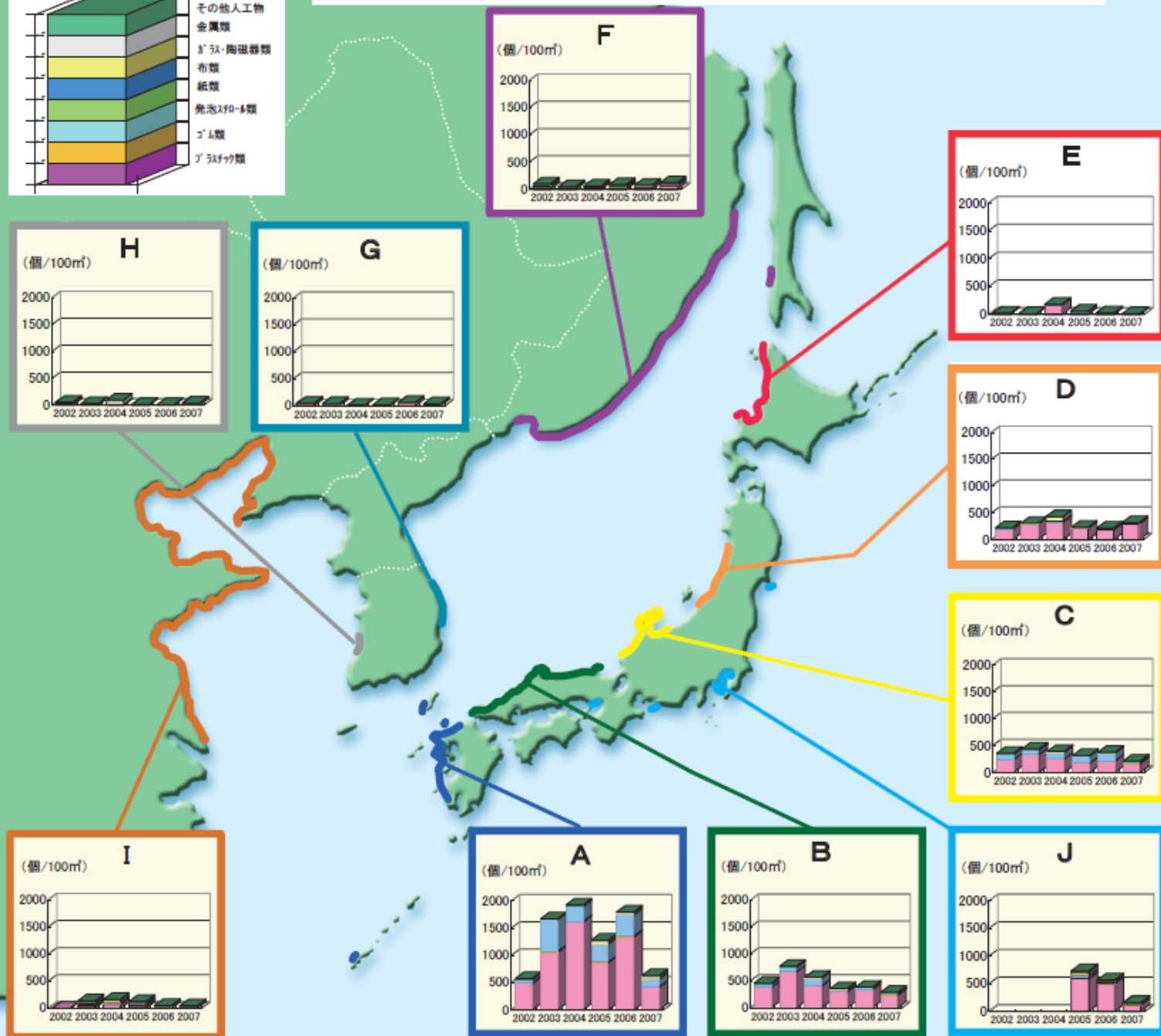
# 漂着物調査

## エリア別 100m2当たり 平均個数

### 凡例



# 海辺の漂着物 分類別平均個数の比較

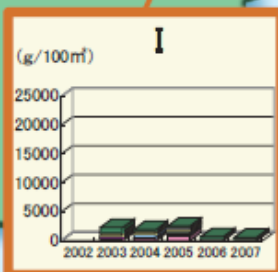
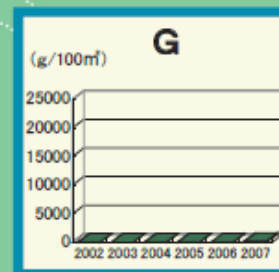
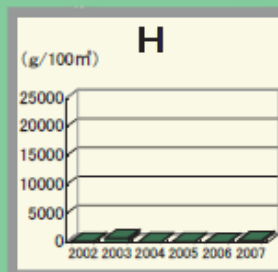
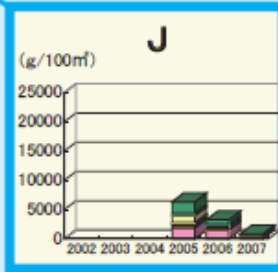
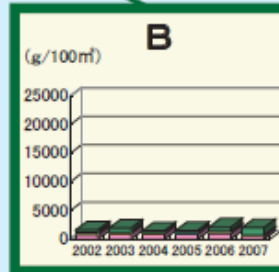
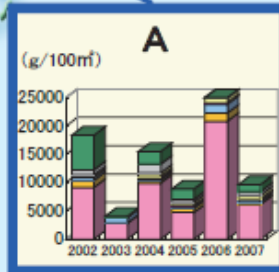
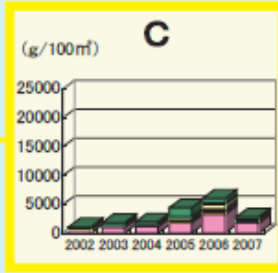
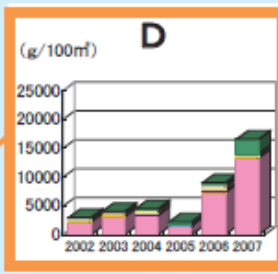
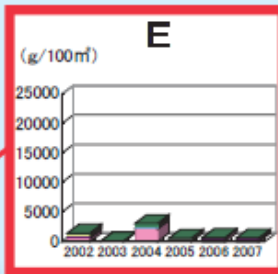
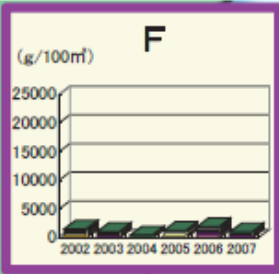
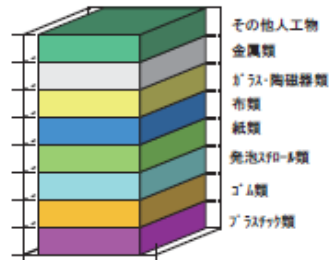


# 漂着物調査

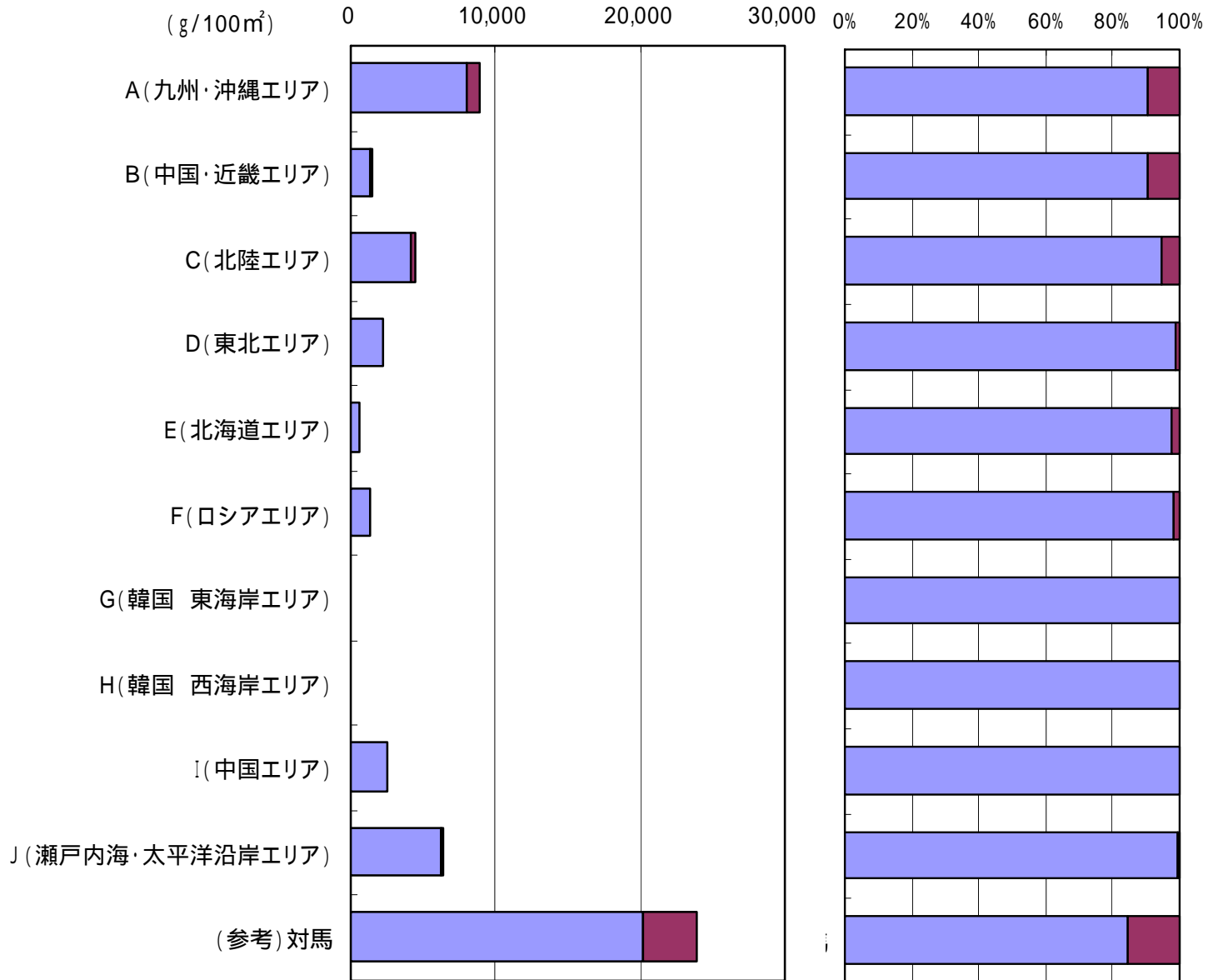
## エリア別 100m2当たり 平均重量

### 海辺の漂着物 分類別平均重量の比較

凡 例



# エリア別100m<sup>2</sup>当たり 国内・海外製品重量及び割合 (2005年度)



# 海辺の漂着物調査 環境教育的側面



# 離島における海洋ごみ被害状況調査

本調査では、我が国の離島の中でも特に海洋ごみ被害の著しい、日本海の南の入口に位置する長崎県対馬と、先島諸島・八重山列島の一つ沖縄県石垣島を調査の対象とした。

# 1. 調査対象地域の概要

## < 長崎県対馬 >

- 島の東西を対馬海流が取り囲むように流れ、リアス式の海岸は総延長911kmに及ぶ。
- 対馬～福岡間138kmに対し、対馬～韓国(釜山)間はわずか50kmと韓国に近い
- 島の高齢化率は26%に達し、国内平均(20%)に比べてはるかに高い(高齢化の進行)

## < 沖縄県石垣島 >

- 八重山諸島は日本最南端の島々で、  
その北側を黒潮本流が北東に向かって流れている
- 八重山諸島における政治、経済、教育、交通、運輸  
の中心
- 台湾との国境に近く、石垣市～那覇市間411kmに  
対し、台湾までの距離は277km

## 2. 長崎県対馬におけるごみ漂着状況

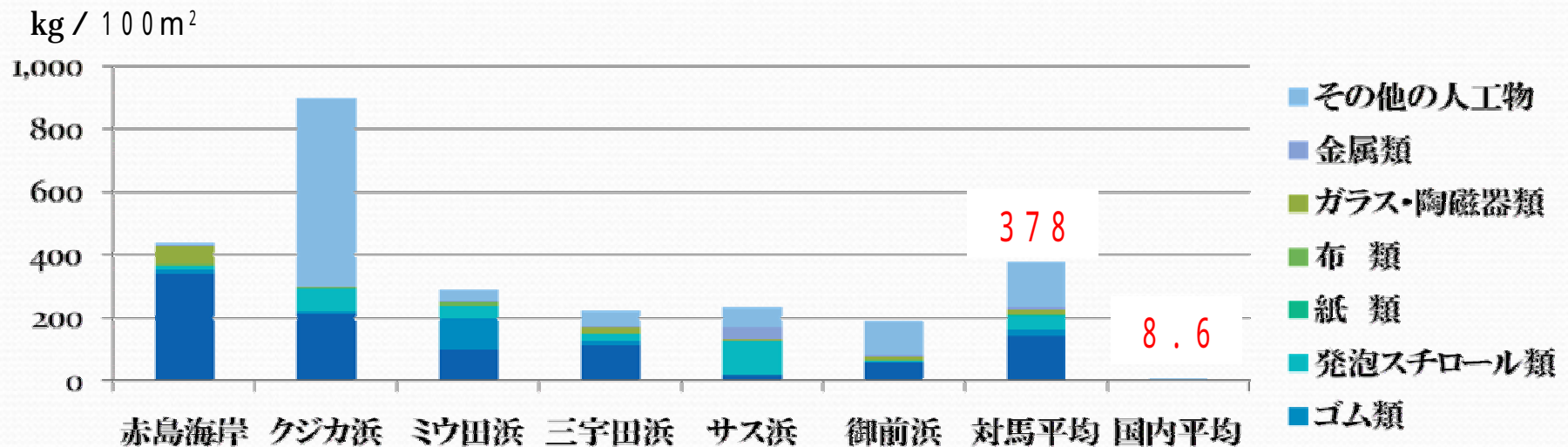
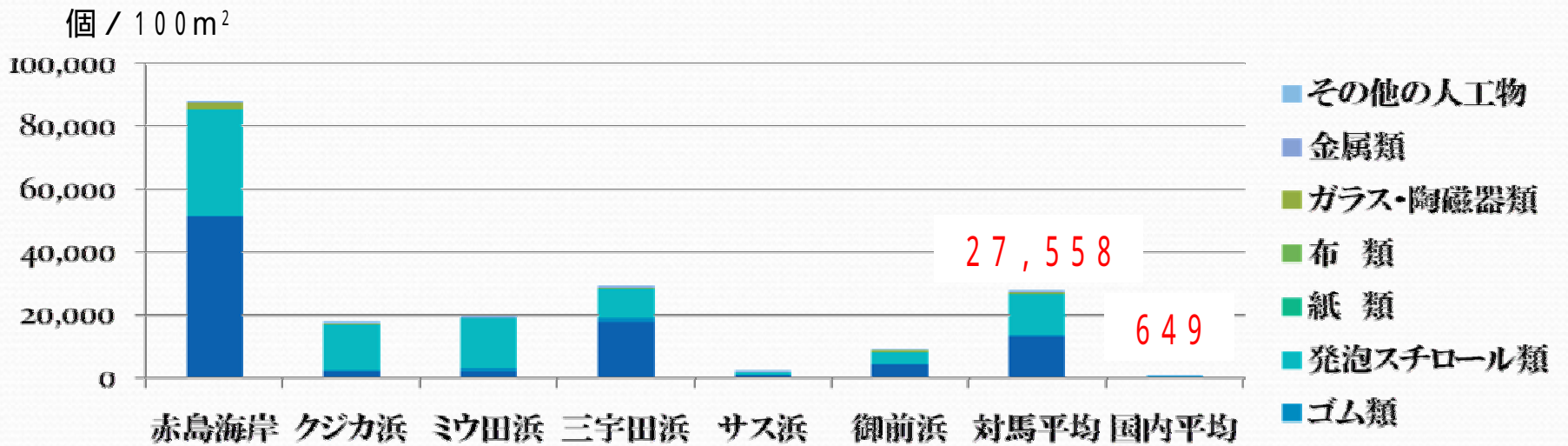
### 大量に漂着するごみ

- 100m<sup>2</sup>あたりの漂着ごみの数は、国内平均(43海岸)の約42倍。重量的には約44倍。
- その大半をプラスチック類と発泡スチロール類が占める。





## 100m<sup>2</sup>あたりの漂着ごみの数・重量



## 外国から押し寄せたごみ

- 韓国・北朝鮮及び中国・台湾製とみられる外国製ごみの割合が高く、重量比で約20%を占める。

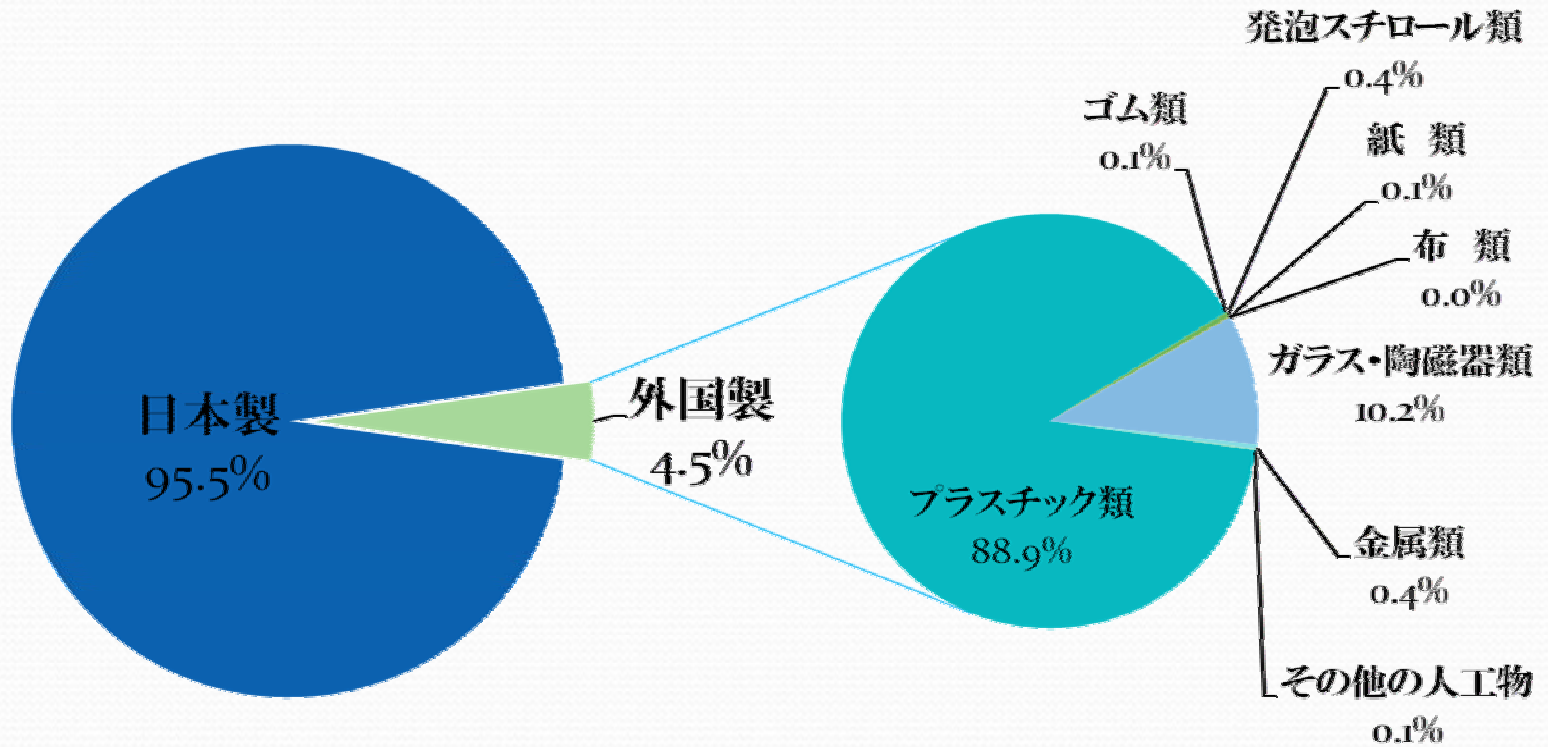


外国製ライター



外国製の漁業用フロート

## 外国製ごみの個数割合



## 破片化したごみ

- 長い間ごみの回収が行われず、細かく破片化し、海岸に堆積している場所も一部にみられる。

回収をより困難なものに!!



### 3. 沖縄県石垣島におけるごみ漂着状況

#### 大量に漂着するごみ

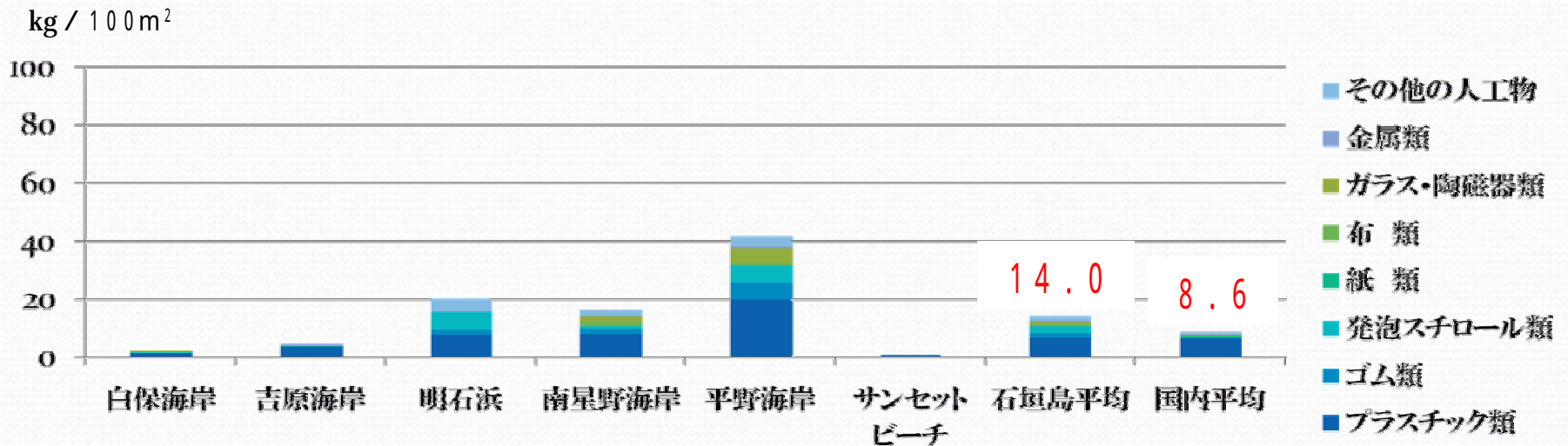
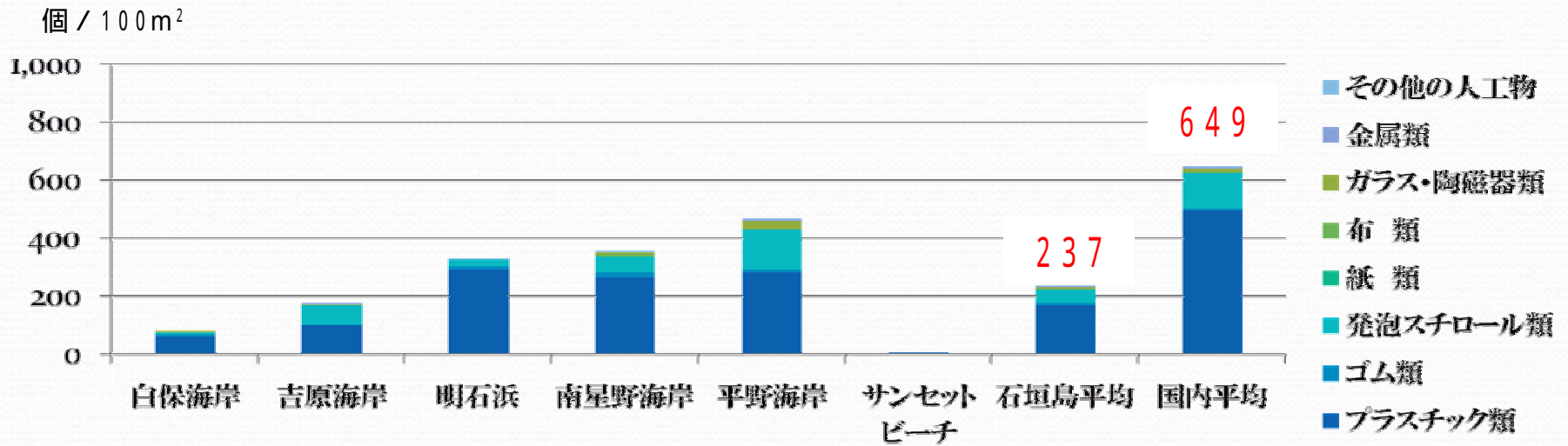
- 100m<sup>2</sup>あたりの漂着ごみの数は、国内平均(43海岸)の約0.4倍。重量的には約1.6倍。
- その大半をプラスチック類が占める。

数日前に地元ボランティア団体による清掃が行われていたことから、調査当日は、比較的清浄な状態が維持されていた。



ボランティア清掃後の海岸の様子と回収された漂着ごみ

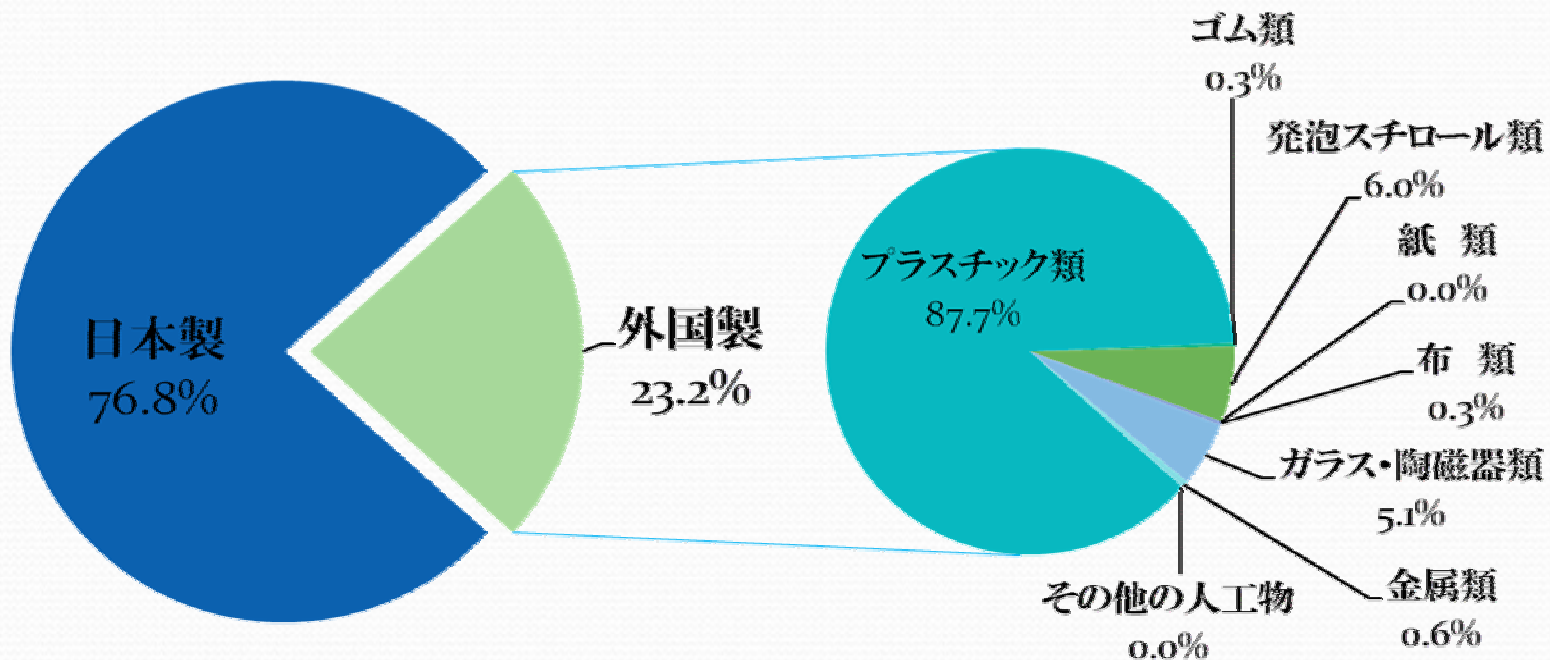
# 100m<sup>2</sup>あたりの漂着ごみの数・重量



## 外国から押し寄せたごみ

- 中国・台湾製とみられる外国製ごみの割合が高く、重量比で約34%を占める。

### 外国製ごみの個数割合



# まとめ

## 離島における漂着ごみの特徴

- 漂着するごみの量が多い
  - 回収しても回収しても、新たなごみが漂着する現状
- 外国製ごみの割合が高い
  - 国際的な取り組みが不可欠
- 細かく破片化し、一部では層状に堆積している
  - 回収を困難にしており、従来の調査方法(海岸表面にある比較的サイズの大きなごみをカウントする方法)では、実態を把握することが困難。



# 平成19年度海辺の漂着物調査検討会



平成20年2月22日 とやま自遊館  
調査実施機関、海洋ごみ専門家等約40名  
参加者による活動紹介、意見交換等

# 海の理解促進講習会



平成20年2月23日 タワー111ホール 一般市民約100名

- ・海洋基本法制定の意義とその背景
- ・環日本海の危機とNOWPAPの取組み
- ・海洋保全活動事例紹介

# 漂着物アート展

～ 海浜のやっかいもの達がアート作品に生まれかわる～



協力：富山大学芸術文化学部、氷見市海浜植物園

・海への関心を高める。

・海洋ごみ問題を普及啓発する。

・海の環境を考える機会を提供する。

## 漂着物アート展

2008年6月1日(日)～30日(日) [環境月間]  
休館日：火曜日 開館時間：9時～17時 入場無料  
氷見市海浜植物園 1階特設ギャラリー

コーディネーター：富山大学芸術文化学部教授 萩原 敏伸

主催：氷見市海とみどりの協会 氷見市海浜植物園 協賛：環境日本海環境協力センター(NJEC)

協力：富山大学芸術文化学部

後援：富山県 富山大学芸術文化学部 県庁とやま環境財団



2008年度 優秀作品

# 海洋ごみ削減方策検討会

今後の海洋ごみ対策のあり方を検討・とりまとめ、  
ひろく発信する。

| 役職名                                   | 氏名        | 専門分野    |
|---------------------------------------|-----------|---------|
| 東京海洋大学海洋科学部海洋環境学科教授                   | 兼広 春之(座長) | 海洋環境学   |
| 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授<br>(海洋研究所兼務教授)    | 木村 伸吾     | 海洋環境学   |
| 富山県立大学短期大学部<br>環境システム工学科教授            | 楠井 隆史     | 海洋環境学   |
| J E A Nクリーンアップ全国事務局代表                 | 小島 あずさ    | 海洋ごみ分野  |
| 富山県立大学短期大学部<br>環境システム工学科准教授           | 立田 真文     | 廃棄物処理工学 |
| 海洋政策研究財団常務理事                          | 寺島 紘士     | 海洋政策分野  |
| 国連環境計画北西太平洋地域海行動計画<br>地域調整部富山事務所総務担当官 | 馬場 典夫     | 国際環境外交  |

**ご清聴ありがとうございました。**

**NPECの海洋ごみ対策事業へのご支援・ご協力をお願いします。**

